

新庄市議会 行政視察報告書

会派名 勁草21

【全体的事項】

1. 視察日程 令和 元年 8月 8日 (木)
2. 調査事項 (視察先)
 - (1) 市立看護短期大学事業について (市町村名) 神奈川県 川崎市
3. 視察参加議員
八鍬長一・叶内恵子・小関淳

【具体的事項】

調査事項 (1)

市立看護短期大学事業について (市町村名) 川崎市
人口：1, 522, 241人 面積：144.35 km²

(視察事項)

○市立看護短期大学事業について視察した。

■視察日時 令和 元年 8月 8日 (木)

午前 10時00分 ~ 12時00分

■所 感

○現在、新庄市は、看護師養成校の開設問題で議会が二分されている。問題は、市長が議会に示した計画内容が二転三転し、建設費や運営費の面でも多くの疑念がある。

そこで今回、川崎市立看護短期大学を視察先とし、開設に至る経緯から開設までの経過、そして、現在の運営上の課題などを訊いた。

川崎市では、昭和61年当時の市総合計画で「多様化し増大する医療需要に対応し、高度な専門性を有する医療技術者の確保を図る」ため、看護短期大学の整備が位置づけ

られた。市医師会として以前から准看護師を養成する専門学校を運営していたが、平成元年度に、県医師会、病院協会等から「看護短期大学設立計画を積極的に推進するよう要望書」が提出された。市は、それを受け設立準備室を設置し、専門職を含め7名体制で進めた。平成5年度には学長予定者、教員予定の市の保健師、外部から看護師の各1名を配置した。平成6年度、外部からの教員予定者を配置し、カリキュラム検討や、教員選定作業に入る。(議会には平成4年度に、説明と予算計上をした。議会は理解し、現在も理解を示している。)そして平成7年4月ようやく開校する。

元々医師会立の看護師養成校があった川崎市ですら、準備室の設置から開校まで約7年を擁していることから、着実なプロセスを踏まえた計画であることがわかる。また、地元医師会や、県医師会、病院協会等の団体から要望書が提出されていることから、地域医療現場の現状を踏まえた明確な開設の根拠となっている。

新庄市には、このような基本的な要素がほとんど見当たらない。トップ周辺が考え、職員が急いで整えるという「やっつけ仕事」そのものである。

また、運営予算は29年度決算で約4億5200万円。令和5年度には4年制大学に移行するため、運営予算は年間6億～6億5千万円になると予想している。4年制大学への移行の理由は、医療の高度化・多様化に的確に対応するためと、学生の大学志向に対応するためなどである。新庄市立看護専門学校(仮称)は3年制である。しかし、3年間で正看護師の国家試験をパスするには、尋常でない多忙な学生生活を送ることになる、学生らしいキャンパスライフなんて送れないと、看護短期大学の教授陣は口をそろえる。

仮に新庄市立看護専門学校(仮称)が開設され、市の説明どおりのカリキュラムならば、基礎科目の郷土の歴史や新庄まつりなどの授業は、学生の多くから反発される恐れがある。すべての学生は、高い志をもって看護師目指し入学する。たとえ地元の歴史や文化を学ぶとしても、余計な時間はない。川崎市立看護短期大学の学生の多くが、国家試験合格目指し、夏季休暇をほとんど看護学実習に向けていたことから、容易にわかる。

川崎市の看護師の過不足については、人口10万人当たりの数が649.8人(全国平均は905.5人)と不足している。また、卒業後の受け入れ先は、市内に50～70%(内、川崎市立病院には40名弱が就職)、近隣自治体に30～50%程度となっており、さらに高度な4年制大学への進学も多くなっている。

新庄市には、市立病院がない。県立新庄病院が受け入れているのは4年制大学を経た看護師もしくは総合病院の勤務経験のある看護師である。このことから、就職先に公立の病院はないことになる。そもそも、新庄市の看護師は不足していない(

この視察で、事業計画の一部をとってみても、市が進める「新庄市立看護専門学校(仮称)」開設には、多くの疑問点と問題点があることがわかる。また事業計画の概算の数字を見ても杜撰としか思えない。

川崎市立看護短期大学には、地域課題解決のために何10年も積み重ねてきた経験値がある。そして教育理念にも、看護師教育にかける熱情があり、教授陣の優しいまなざ

しがある。そのような大学で学ぶ学生は、幸せであると感じた。

新庄市立看護専門学校（仮称）の開設には、相当の無理がある。幸せになれるのは、ごくごく一部の市民ではないのか。

小関 淳